

NPO法人 健康住宅普及協会

第4回省エネ判断ソフトPROバージョンアップ検査研修会 in 東京

併催：開口部の断熱気密工法(AGS)

省エネ判断ソフトPROのバージョンアップ

関係各位

拝啓 紅葉の候、貴社ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第4回（通算第10回）の標記研修会を企画いたしました。年末に向かうお忙しい時期とは存じますが、いま現在最も関心の高まっている室内環境の検査法を集中して学びます。これによって、お客様の不安や要望に即対応できる人材育成を目指しております。

健康・エコを掲げる地域工務店様は、万障お繰り合わせの上、ご参加ください。

2011. 11. 28・29 東京にて研修会

	曜日	内容	宿泊&自由時間
1日目	11月28日(月) 午前10時より	・ 省エネ診断PRO運用研修会 ・ 開口部の断熱気密工法(AGS) ・ エコボロンPRO紹介(認定済み防蟻剤)	・ 懇親会
2日目	11月29日(火) 午前10時より	・ 住宅内(PS+カビ&ダニ)試料採取研修 ・ 第1種熱交換型「澄家Eco S ハイブリッド型」と新換気量測定法の解説(新規) ・ TVOC簡易採取と放射性物質検査法(新規)	自由解散

【研修会の特長と参加費】

1日目：断熱構造の省エネ判断ソフト Ver. 5.0 運用研修会：参加費 10,000 円/名

- ① 省エネ診断PROの最新版により、お客様の家の性能とランニングコストの関係がきちんと数値によって見える化でき、強力な営業支援の武器となる。
- ② 開口部性能アップによる長期優良住宅への導入と意味づけが一段と可能
- ③ エコボロンPRO：(社)日本木材保存協会の認定済防蟻剤の紹介

※省エネ判断ソフトPROのバージョンアップ版ソフト販売も、受講者特価にて販売します。

2日目：協会の定められた測定手法により、自社の検査実施要員を育成し、信頼性ある調査結果をお客様に認定書として提供できるスキルを身につける研修会：参加費 15,000 円/名

- ① これらのスキルは、「住まいの健康度 履歴書」(旧・認定制度)に連動されるものです。
- ② 今回は一定水準の成績にて特別資格HP上に公表の機会として、すでに受講済みの方も、受講することで修了書と認定カード(2頁参照)を作成発行いたします。

※ 今後、調査の際は、必ず一般ユーザーへの提示を義務づけるもので、HPでもカード提示者のみが調査をすることを謳います。
この際に、ぜひ再受講されることをお勧めいたします。

※ 当日皆様の検査員証用顔写真を撮りますので、よろしく願いいたします。

- ③ 研修修了の登録各社におかれては、この機会に必ず研修を受け、サンプリングスキルをご自身のものにして、生活者から信頼されるコミュニティービルダー体制の第一歩を築いていただきたく、複数社員の受講を重ねてお願い申し上げます。

第4回 省エネ判断ソフトPROバージョンアップ研修会 in 東京

研修会 1日目申し込み書

FAX ⇒ 03-3538-2238

【締め切り 11月24日(木)】

担当:池田、櫻井

参加者氏名		所属部署/ 役職名	
携帯番号	— —	指導員資格	有 : 無、その他の資格 ()
携帯メール		@	
所属社名			
所属社住所	〒 —		
電話番号	— —	FAX番号	— —
E-mail		@	

※ 2人目からの参加者は、お手数ですがコピーをとり、1名ずつお申し込みください。

※ 上記申込書は、今後の連絡をスムーズにするために、必ずすべてをお書きください。

今後はE-mailでのご連絡を重視してご連絡を図る予定です。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

■ 日時:11月28日(月) 午前10時から
(開場9:30)

■ 会場: 新富区民館へのアクセス

・東京都中央区新富1-13-24

TEL:03-3297-4038

・東京メトロ日比谷線

JR京葉線八丁堀駅下車

A3出口 徒歩5分

・中央区コミュニティバス

(江戸バス): 新富区民館28番 0分

■ 参加費: 10,000 万円/人

事前に請求書を発行いたします。

指定金融機関にお振込み願います

■ 注意: 当日の持参品【計算機】

■ 当日連絡先: 080-1166-9169



第 10 回住宅内試料採取検査(PS+カビ・ダニ)研修会 in 東京
研修会 2日目申し込み書 FAX ⇒ 03-3538-2238

【締め切り 11月 24 日 (木)】

担当:池田、櫻井

参加者氏名		所属部署/ 役職名	
携帯番号	— —	指導員資格	有 : 無、その他の資格 ()
携帯メール	@		
所属社名			
所属社住所	〒 —		
電話番号	— —	FAX番号	— —
E-mail	@		

※ 2人目からの参加者は、お手数ですがコピーをとり、1名ずつお申し込みください。
 ※ 上記申込書は、今後の連絡をもらえなく速やかにするために、必ずすべてをお書きください。
 今後はE-mailでのご連絡を重視してご連絡を図る予定です。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日時:11月 29 日(火)午前 10 時から
(会場 9:50)

■ **会場:中央区築地社会教育会館**
 東京都中央区築地 4 丁目 15 番 1 号
 TEL : 03-3542-4801
 03-3542-4802

■ **アクセス:都営浅草線**
 東京メトロ日比谷線
 東銀座 徒歩約5分

■ **参加費: 15,000 万円/人**
再受講者・指導員資格者: 8,000 円
 事前に請求書を発行いたします。
 指定金融機関にお振込み願います

■ **当日連絡先:080-1166-9169**



【 11月29日(火)・研修会概要 】

■名 称：第10回住宅内試料採取検査(PS+カビ・ダニ)
& 換気量簡易測定法研修会 in 東京

■開催日：2011年11月29日(火)

■会 場：中央区立社会教育会館(住所・地図：別紙参照)

■時 間：9:50(受付)・10:00(開講)～16:40(終了)

■内 容：

1. 研 修(10:00～12:00)「住宅における化学物質及びカビ・ダニ等の資料採取について」
実 習「PSサンプラー及びカビ・ダニ検査法」

昼食・休憩(12:00～13:00)

2. 特別講義Ⅰ(13:00～14:45)「新しい計画換気システムとkestrel4200のご紹介と
新換気量簡易測定検査による必要換気量の確認法」

休憩(14:45～15:00)

3. 特別講義Ⅱ(15:00～15:45)「健康住宅を提供する新しい検査の位置づけと営業展開強化」

休憩(15:45～16:00)

4. 講義内容確認レポート及びアンケート作成(16:00～16:30)

5. 対象者(定員30名先着順)：健普協会員やその従業員、及び指導員や同等の資格保有希望者
なお、新会員は、必ず受講をお願いいたします。

6. 研修費用 新規研修者：15,000円/人
再受講者：8,000円/人(当協会指導員登録者および指定研修受講者)




★【研修費、テキスト代、修了証・認定カード代、お弁当、お茶、消費税含む】

7. 宿泊：各自でお手配をお願いいたします

公共研修施設利用のため、参加人数の確定を急ぎます。
各社のお申込を早めに調整され、お返事をいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

検査員証(仮)カード見本

(修了証は紙面の都合上割愛いたします)

	
室内空気質環境検査員証	
氏 名 健康 花子	
	登録番号 1211008 生年月日 1992年10月1日 有効期限 2010年11月18日より2カ年 NPO法人健康住宅普及協会 理事長 須藤千春 上記の者は正規研修を修了し、住宅内試料採取(PS+カビ・ダニ)検査員として登録していることを証明する

省エネ判断ソフト使用の応用で分かること & 先進的省エネ基準の事例紹介

1. リフォームでの使用

リフォームでの使用は可能ですが、リフォームでは改修前の断熱仕様が不明な場合がよくあり、当然この場合は計算できません

2. CASBEEとの関連性

CASBEE は省エネ性を判断するときに、住宅性能表示制度の等級判定を行います。「省エネ判断」ソフトでは、この等級を判定することができます

3. スマートハウスでの活用

スマートハウスについては、各メーカーで取り扱いが異なり、定義がはっきりしていません

一般的には、省エネと HEMS などを組み合わせたものが、スマートハウスと言われることが多く、熱損失係数との関連性はあまりありません

4. 断熱材と遮熱材の使い分け方と仕様化での注意点

従来は、遮熱材は熱損失係数に考慮できませんでしたが、現在は、省エネルギー基準の改正で遮熱材が考慮できるようになりました。「省エネ判断」ソフトでも遮熱材の計算に対応しています

ただし、遮熱材を使用して熱損失係数を計算してみると、設定が複雑になる割には、熱損失係数的には効果は少ないようです

5. CO₂の低減の提示方法

現在の「省エネ判断」ソフトは、暖冷房で排出される CO₂ 量を計算できるようになっています。この説明を講義に入れます。

6. 先進的冷暖房負荷計算の諸事情

①北海道および札幌市での基準：省エネルギー基準に先行する形で新しい基準を定めています。この傾向を見ますと、ドイツなどの他国を参考にしているのではなく、あくまでも熱損失係数をベースに検討しているようです

②ドイツのパッシブハウス基準：暖冷房負荷をベースにしています

③日本の省エネルギー基準：今後のことはわかりませんが、日本は熱損失係数をベースとして、省エネを組み合わせる方向に行くのかもしれませんが